竹島問題に関する調査・研究等に功績のあった
功労者に対する感謝状贈呈者一覧

＊敬称略・五十音順

区分	氏名（年齢）	功　　績
資料提供	宇野（うの）　正人（まさと）（74）	・千葉県野田市在住、江戸川大学名誉教授。明治28年に島前から竹島へ出漁したとされる宇野操氏の曾姪孫。 ・妹のむつみ氏（故人）とともに、祖父母が経営していた商店を中心とする鬱陵島の写真や過去帳など多数の貴重な資料を提供された。 ・父や祖父母から伝わる宇野家の歴史について証言され、竹島での経済活動はもとより、戦前の鬱陵島での日本人社会に関する貴重な情報を得ることができた。
証言	大濱（おおはま）　和昌（かずまさ）（87）	・西ノ島町在住。祖父の大濱乙若氏は、鬱陵島からの材木運搬時に竹島付近を航行したことがあり、西ノ島町三度地区でアシカ猟を行う。 ・乙若氏から伝わるアシカ猟の詳細について証言され、竹島で盛んだったアシカ猟に関する調査研究の進展に貢献された。 ・氏の証言により、町の有形民俗文化財第１号に指定されている「力石（ちからいし）」は、アシカ取りのため、三度地区矢走（やはし）の洞窟にトモド船で出入りする際の浮力調整に使用されたことが判明した。
資料提供	上谷（かみたに）　静子（しずこ）（83） 田畑（たばた）　有吉（ゆうきち）（80）	・海士町在住、姉弟。明治期、祖父田畑長四郎氏の代から鬱陵島へ移り住み、出生から終戦までの幼少期を鬱陵島で過ごす。 ・父田畑清次氏は鬱陵島で下駄工場を経営する傍ら、休業期には竹島付近でイカ漁を行い、獲れたイカは鬱陵島に持ち帰りスルメに加工したこと、終戦で隠岐へ引き揚げる際に航海の目印に竹島を目撃したことなどを詳細に証言され、鬱陵島での生活の実態など貴重な情報を得ることができた。 ・また、日本統治時代の鬱陵島の貴重な写真も多数提供された。
証言	八幡（やわた）　和憲（かずのり）（90）	・隠岐の島町在住、元五箇村漁協久見支所長。昭和29年5月に久見漁業協同組合が竹島での漁業権を行使した際（戦後、最初で最後の漁）は、出漁者家族への連絡役を担う。 ・久見地区の竹島出漁者に関する情報や竹島における漁猟の詳細について多数証言され、久見地区における竹島漁猟の研究進展に貢献された。 ・祖父八幡太一氏が使用した、明治中後期に竹島の漁で使用されたものと同型の櫂など貴重な漁具11点を隠岐の島町に寄贈された。
啓発推進	島根県立安来高等学校新聞部	・部員数 4名（令和2年2月現在）、顧問 花井寿美子教諭。 ・学校新聞「安来高新聞」を発行、校内外へ配布しホームページで配信。 ・2013年から毎年継続して竹島問題をテーマに取り上げ、竹島資料室や研究者へ取材を行うなど記事づくりに意欲的に取り組む。 ・高校生の視点で竹島問題の現状や背景、関係者の取り組みをわかりやすく紹介し、竹島問題に対して自分たちにできることを呼びかけるなど、竹島問題への関心が低調な若年層の啓発に貢献している。

＊年齢は２０２０年２月２２日現在